

第3回 藤沢駅前街区エリアデザイン会議

日時：2023年(令和5年)1月31日(火)
午前10時から
場所：藤沢市役所分庁舎6階 6-3会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 藤沢駅前街区エリアデザインコンセプトの検討の整理
- 3 藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト(素案)
- 4 南北自由通路のデザインの検討
- 5 閉 会

(配布資料)

- 資料1 スケジュール
- 資料2 藤沢駅前街区エリアデザインコンセプトの検討の整理
- 資料3 藤沢駅前街区エリアデザインコンセプト(素案)
- 資料4 南北自由通路のデザイン(イメージ)
- 参考資料 藤沢駅周辺地区再整備事業のコンセプト
- 参考資料 南北自由通路の動線計画

スケジュール

| 年度 | 月 | スケジュール | 会議 | 議題 | |
|---------|------|----------------------------|-------|---|---|
| (令和4年度) | 6 | | | | |
| | 7 | エリアデザインコンセプトの検討 ↓ 決定 | ● | 第1回会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・エリアデザイン検討の基本的な考え方 ・コンセプト(イメージ)の提示 |
| | 8 | | | | |
| | 9 | | | | |
| | 10 | | ● | 第2回会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・エリアデザインコンセプト(たたき台)の提示 |
| | 11 | | | | |
| | 12 | | 反映 → | | |
| 1 | ● | | 第3回会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・エリアデザインコンセプト(素案)の提示 ・南北自由通路のデザイン(イメージ)の提示 | |
| (令和5年度) | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| | 4 | 南北自由通路のデザインの検討 ↓ 決定 | ● | 第4回会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・エリアデザインコンセプトの(案)の提示 ・南北自由通路のデザイン(たたき台)の提示 |
| | 5 | | | | |
| | 6 | | | | |
| | 7 | | | | |
| | 8 | | ● | 第5回会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・エリアデザインコンセプトの決定 ・南北自由通路のデザイン(素案)の提示 |
| 9 | | | | | |
| 10 | ● | | 第6回会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・南北自由通路のデザイン(案)の提示 | |
| 11 | | | | | |
| 12 | | | | | |
| 1 | | | | | |
| 2 | 決定 → | 南北自由通路の詳細設計へデザインを反映 | ● | 第7回会議 | <ul style="list-style-type: none"> ・南北自由通路のデザインの決定 |
| 3 | | | | | |

【STEP-1】 エリアデザインコンセプトの目的

【委員の意見】

- 市として、この場所の位置付け・湘南の玄関口としての位置付けを示してほしい。(第1回)
- 「湘南」という大きな括りではなく、「藤沢」という文化・場所にこだわったコンセプトとすべきではないか。(第2回)
- ここでいう「藤沢らしさ」は「藤沢駅周辺らしさ」でなくてはならないと思う。(第2回)



【事務局の整理】

- 「湘南・藤沢らしさ」とすると範囲が広がるため、藤沢駅前街区として、特に「藤沢駅前らしさ」という視点でエリアデザインコンセプトを検討する。
- 藤沢駅前街区のエリアデザインコンセプトを設定することで、都市基盤だけではなく民間施設を含め、統一的な方向性を持ったまちづくりを進め、駅前街区の魅力創出・発信につなげていく。

【STEP-2】 「藤沢駅前らしさ」の整理

【委員の意見】

- デザインの基となる市の方針や藤沢らしさの基となった議論を示し、更に情緒的なキーワードを取り出してもらいたい。(第1回)
- 「トップダウン」と「ボトムアップ」の両方から「藤沢駅前らしさ」を見出し、人の活動と結び付けてデザインを展開していく流れになるとよい。
- エリアデザインコンセプトは、これまでの個別の整備コンセプト等も踏まえ、エリア全体を包括する必要があると思う。(第2回)

【藤沢駅前らしさに関する意見】

- ある程度充実した現況から一步踏み出し、シビックプライドを見つけ、未来に発展していく表現だとよい。(第1回)
- 目的地が分かりやすく、拡がりが体现できる表現だとよい。(第1回)
- 3社の鉄道が集まる駅としては、発信性が感じられる前向きな表現であってほしい。(第1回)
- 藤沢駅前は玄関口という「通過点」ではなく「目的地」であるべきではないか。(第2回)
- 「目的地」であると同時に、ある種の「ゲート」になっているのかもしれない。(第2回)
- 人が集まる場所であった藤沢駅前らしさを取り戻したい。(第2回)
- コンパクトシティとしてのまとめ、ミックスカルチャー的な部分が「藤沢らしさ」なのかもしれない。(第2回)
- 「都心」「中心地」としての特徴にフォーカスしていくのが良いと思う。(第2回)
- 藤沢駅前には、インデックスという形で多様な藤沢の顔を有していると思う。(第2回)
- 駅前街区は人が行き交う場所であり、移動しやすい、動きやすいデザインであるとよい。(第2回)



【事務局の整理】

- 藤沢駅前らしさを「トップダウン」と「ボトムアップ」から検討する。
- 「トップダウン」は、都市マスタープラン、藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画、個別整備計画で定めている藤沢駅前街区に関連する方向性や位置づけ、役割等をキーワードで抽出する。
- 「ボトムアップ」は、過去に実施した市民アンケートや藤沢駅南口駅前広場等あり方検討会議及び藤沢駅前街区エリアデザイン会議での意見から、藤沢駅前街区に関連するキーワードを抽出する。

【トップダウン】
上位計画等における「藤沢駅前街区」に関連するキーワード

- (都市マス) 都市基盤や商業・業務、文化機能が集積する広域拠点/湘南ブランドを生かした活力増進と情報発信/多機能回遊型の中心市街地/都心及び広域交流拠点/湘南の玄関口/都心にふさわしい風格のあるシンボルとなる都市空間
- (基本構想) 次の時代の湘南・藤沢ライフを先導し、プロモーションする都心/「ハレの日」のお出かけ/買い物の街/目的地となる商業地/湘南らしいフラットな交流を楽しめるにぎわいの場・商業・サービス/市民の愛着・ローカルアイデンティティへと繋がる/湘南の四季を楽しめる/次の時代のライフスタイルを提案・先導する/湘南の玄関口/藤沢の顔・シンボル/太陽、海、空といった自然イメージ/開放感のある駅前広場
- (特殊街路) ヒューマンスケールの路地空間/サードプレイス/いつでもにぎわう・都市の路地/お洒落でノスタルジー/夜はロマンチックに
- (北口デッキ) 日常の暮らしに高揚感を感じられる/歴史・文化、自然資源を背景とした明るくおらかな空間/時代に流されないスタンダード/ゆとりある、温かみのある
- (東西通路) 安心で快適/交通結節点/人にやさしい空間/藤沢の立地や風土

【ボトムアップ】
市民意見等における「藤沢駅前街区」に関連するキーワード

- (市民アンケート) 田舎と都会のほどよいミックス/便利で日常の買い物がしやすい/緑が多く鳥もたくさんいる/イベントがあって楽しい/湘南の入口の明るい空気と風/ほどよい田舎の空気感/乗換えに便利/藤沢産のものが買える環境/ゆっくりとくつろげる/夜も明るく楽しめる/お年寄りに優しい/スムーズな移動
- (あり方検討会議) 平均点を少し上回った生活/古いまち、ごちゃごちゃ感/潮風、明るい、暖かい、柔らかい、優しいイメージ/緑が豊かで気候も暖かい/ほっとするような空気感/湘南らしいかっこよさ、センスのよさ/人が多くて活気のある/歩きやすい/市民が使えるような憩い/立ち止まれる、くつろぐ、遊べる、ゆったりとした明るく過ごしやすい/食べ歩きや市場、レトロ感のある商店街や飲み屋街/待合わせができる/湘南への寄り道
- (エリアデザイン会議) シビックプライド/目的地が分かりやすい/拡がり体现できる/発信性を感じられる/通過点ではなく目的地/ある種の「ゲート」/人が集まる場所/コンパクトシティとしてのまとめ/ミックスカルチャー的な部分/都心・中心地/インデックスという多様な藤沢の顔/人が行き交う



【STEP-3】 「藤沢駅前らしさ」を踏まえたデザインの方向性

【委員の意見】

- 都市景観であるエリアデザインコンセプトを考える際、物的な要素が大きいのは事実ですが、人そのものが体現したり、人の活動が景観をつくったりしていく見方もあると思う。(第2回)
- 物的な要素と人の活動みたいなものの両方が、エリアデザインを作っていくのではないかと思う。(第2回)
- 物的な要素そのものから受け取るイメージと物的な要素が引き起こす人の空間のようなものの両方の視点が入っているとよい。(第2回)
- モノのデザインが人のアクティビティを規定していくので、物を作ることで、人の活動にも影響してくるのだと思う。(第2回)
- 「らしさ」と人のアクティビティは切り離せないと思いました。(第2回)
- 人のアクティビティを言語化することも必要なかもしれません。(第2回)
- トップダウンとボトムアップの両方から吸い上げることで「藤沢らしさ」を見出して、人の活動と結びつけてデザインを展開していくという流れができるとよい。(第2回)
- 要素をそぎ落として、エッセンス(共通項)を導き出せるとよい。(第2回)
- 南北自由通路が完成する10年後という「時間軸」を意識することも大事。(第2回)



【事務局の整理】

- 委員意見を踏まえ、都市の景観は「物的な要素(空間の設え)」とそこで繰り広げられる「人の活動(アクティビティ、振る舞い)」が一体となって創り出されるものと整理する。
- 【STEP-2】で抽出した「藤沢駅前らしさ」のキーワードを「A. 空間の設え」につながるものと、「B. 人のアクティビティ」につながるものに振り分け、そこからデザインの方向性(共通項)を見出す。

A. 「空間の設え」につながるキーワード

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> * 湘南ブランドを生かした活力増進と情報発信 * 湘南の四季を楽しむ * 太陽、海、空といった自然イメージ * いつでもにぎわう都市の路地 * 日常の暮らしに高揚感を感じる * 緑が多く、鳥もたくさんいる * イベントがあって楽しい * 夜も明るく楽しめる * 緑が豊かで、気候も暖かい * 人が多くて活気のある * 発信性が感じられる | <ul style="list-style-type: none"> * 次の時代の湘南・藤沢ライフを先導し、プロモーションする都心 * ヒューマンスケールの路地空間 * サードプレイス * ゆとりある、温かみのある * 安心で快適 * 人にやさしい空間 * 湘南の入口の明るい空気と風 * お年寄りにやさしい * 平均点を少し上回った生活 * 潮風、明るい、暖かい、柔らかい、優しいイメージ | <ul style="list-style-type: none"> * 都心にふさわしい風格のあるシンボルとなる都市空間 * 市民の愛着・ローカルアイデンティティへと繋がる * 藤沢の顔・シンボル * お洒落でノスタルジー * 夜はロマンチックに * 藤沢の立地や風土 * 田舎と都会のほどよいミックス * ほど良い田舎の空気感 * 藤沢産のものが買える環境 * ほっとするような空気感 * 湘南らしいかっこよさ、センスのよさ * 食べ歩きや市場、レトロ感のある商店街や飲み屋街 * シビックプライド |
|--|--|--|

自然・明るさ

温もり・優しさ

愛着・懐かしさ

B. 「人のアクティビティ」につながるキーワード

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> * 「ハレの日」のお出かけ * 買い物の街 * 目的地となる商業地 * 湘南らしいフラットな交流を楽しめる * 次の時代のライフスタイルを提案・先導する * 開放感のある駅前広場 * 歴史・文化・自然資源を背景とした明るくおらかな空間 * 時代に流されないスタンダード * ゆっくりとくつろげる * 市民が使えるような憩い * 立ち止まれる、くつろぐ、遊べる、ゆったりとした明るく過ごしやすい * 拡がりが見える * 人が集まる場所 | <ul style="list-style-type: none"> * 都市基盤や商業・業務、文化機能が集積する広域拠点 * 古いまち、ごちゃごちゃ感 * 湘南への寄り道 * 通過点ではなく目的地 * コンパクトシティとしてのまとまり * ミックスカルチャー的な部分 * インデックスという多様な藤沢の顔 * 人が行き交う | <ul style="list-style-type: none"> * 多機能回遊型の中心市街地 * 都心及び広域交流拠点 * 湘南の玄関口 * 交通結節点 * 便利で日常の買い物がしやすい * 乗換えに便利 * スムーズな移動 * 歩きやすい * 待ち合わせができる * 目的地がわかりやすい * ある種の「ゲート」 * 都心・中心地 |
|--|--|---|

にぎやかで開放的

有機的な結びつき

分かりやすく機能的

【STEP-4】 デザインの方向性の組合せによるコンセプトの作成

【委員の意見】

- 空間・カラー・サインのような具体的なコンセプトを示すより、より応用が利くデザインの考え方を示すことの方がよい。(第1回)
- 「つながり、広がり、交わり」のような駅前街区の特性をシンプルな言葉で表現できると良い。(第1回)

【事務局の整理】

- 【STEP-3】で整理した「A. 空間の設え」と「B. 人のアクティビティ」のそれぞれのデザインの方向性を組み合わせ、空間的基盤とそこで展開される人の活動を結び付けて考える。
- コンセプトは「藤沢駅前らしさ」からどのような駅前であってほしいかの想いを示し、「A」と「B」につながるデザインの方向性をそれぞれ1つずつ組み合わせることで設定する。
- デザインコンセプトを表現するデザインの方向性と展開イメージ、キャッチフレーズを示すことで、コンセプトを共有しやすいようにする。

素案①

《デザインコンセプト作成の想い》

- * 湘南の気候に育まれたこの土地は、広々とした空や太陽、海といった**自然を感じられる**とともに、そこで営む人々のあたたかい人柄や穏やかで明るい性格は、**訪れるすべての人に対して開放的**な駅前となっている。
- * 藤沢駅は本市の都心であり、充実した都市機能を有したまちとして、様々な人々で活気溢れる空間としていきたい。
- * 太陽の日差しが降り注ぐ「**晴れ**」の日をイメージした**明るさ**と、ここに来れば非日常が味わえる特別感・祝祭感があるような、人が集まる「**ハレ**」の日をイメージした**にぎやかな**「藤沢駅前らしさ」を創出していく。

《デザインの方向性》

A 自然・明るさ

- * 空、太陽、海といった藤沢の豊かな**自然**を感じられるような**明るい**デザインとする。

《展開イメージ》

- * 木漏れ日のような日の光が感じられる空間
- * 自然素材を用いた海や風土を感じる空間
- * 木の温もりにより、あたたかみが感じられる空間
- * 駅前で自然と触れられるような人と自然の距離が近い空間

B にぎやかで開放的

- * そこに行けばたくさんの人やモノと出会い、特別感・祝祭感のある**にぎやかで開放的**なデザインとする。

《展開イメージ》

- * 内のにぎわいが外に伝わる開放的な空間
- * 活発な人の活動呼び起こす空間
- * 居住者や来訪者といった誰もが自由にできる空間

《キャッチフレーズ》

HARENOHI FUJISAWA (ハレノヒフジサワ)

素案②

《デザインコンセプト作成の想い》

- * 藤沢駅周辺は、多様な機能と、そこに集まってくる人や活動が混ざり合う「ミックスカルチャー」的な場所としての魅力を感じられる。
- * これらの人たちが、それぞれの目的に合った、又は目的がなくとも自分なりの居心地の良い「居場所」を見つけ、時間を気にせず居続けられるような場としていきたい。
- * 都市の中にそれぞれが居場所(サードプレイス)を見つけられるよう、一見バラバラでありながら、**まち全体が有機的に結びつく**ことで、まとまりや一体感を感じるとともに、**訪れる人を包み込む温もりや優しさ**をもった**ちょっと行きたくなる**「藤沢駅前らしさ」を創出していく。

《デザインの方向性》

A 温もり・優しさ

- * 誰もがこのまちに来て、自分に合った居場所を見つけられるような、**温もり・優しさ**を感じるデザインとする。

《展開イメージ》

- * 都市の喧騒の中でも安らぎのあるまちの憩いの場所
- * 曲線的な空間による境界の曖昧さがどこにいても居心地のいい
- * どこにいても太陽の光を感じられる光に包まれるような空間
- * 都市の隙間に人が落ち着ける場所を生み出す空間

B 有機的な結びつき

- * さまざまな活動が混在しながら、まち全体として協調性や一体性が感じられる**有機的に結びついた**デザインとする。

《展開イメージ》

- * 緩やかな曲線を利用した有機的なデザイン
- * 様々な活動に境界がなく一体性が感じられるデザイン
- * アクティビティが混在する中でも自分の居場所がある空間
- * 大地のようなやわらかな広場で施設とまちがつながる空間

《キャッチフレーズ》

ちょっと行ってくるね。駅前

素案③

《デザインコンセプト作成の想い》

- * 藤沢駅周辺は、市民や来訪者にとって、買い物やレジャーの場として、また、湘南の玄関口として、多くの人が訪れる場となっている。
- * 都心という場所でありながら、市民はもちろん、まちを訪れる人もどこか**まちへの愛着や懐かしさ**を感じ「**ただいま**」と言いたくなる雰囲気を作り出していきたい。
- * 様々な人たちが行き交うゲートとして、これから色々な所に向かう人たちの「**いってきます**」が溢れており、それぞれの目的に応じて、**スムーズな人の流れを作る、わかりやすく機能的な**「藤沢駅前らしさ」を創出していく。

《デザインの方向性》

A 愛着・懐かしさ

- * 誰もがこの場所へ訪れた際、まちへの**愛着**やふるさとを思い浮かべるような、**懐かしさ**を感じるデザインとする。

《展開イメージ》

- * 都市の中にいてもどこか懐かしさを感じられる縁側のような空間
- * 昔ながらの建物の良さを残しつつも新しい時代にも対応した空間
- * まちの歴史を体現した、まちへの愛着を持つきっかけとなる空間
- * 過去の場所性が継承されつつもにぎわいが感じられる空間

B 分かりやすく機能的

- * 行きたいところが**分かりやすく**、行ってみたいと思えるような**機能的**なデザインとする。

《展開イメージ》

- * 目指す場所が分かりやすくデザインされている空間
- * 周囲の活動や施設が認識できる見通しがよい空間
- * 額縁のような目を引く、まちに顔を出した空間
- * 情報が「活動」を刺激・誘発するような仕掛けがある空間

《キャッチフレーズ》

“ただいま”と“いってきます”で溢れるまち。

1. コンセプトへの想い

* 湘南の気候に育まれたこの土地は、広々とした空や太陽、海といった自然を感じられるとともに、そこで営む人々のあたたかい人柄や穏やかで明るい性格は、訪れるすべての人に対して開放的な駅前となっている。

* 藤沢駅は本市の都心であり、充実した都市機能を有したまちとして、様々な人々で活気溢れる空間としていきたい。

* 太陽の日差しが降り注ぐ「晴れ」の日をイメージした明るさとここに来れば非日常が味わえる特別感・祝祭感があるような、人が集まる「ハレ」の日をイメージしたにぎやかな「藤沢駅前らしさ」を創出していく。

2. デザインの方向性と展開イメージ

A. 自然・明るさ

空、太陽、海といった藤沢の豊かな自然を感じられるような明るいデザインとする。



木漏れ日のような日の光が
感じられる空間のイメージ

出典：沖縄フィルムオフィスHP(沖縄県立博物館)



自然素材を用いた
海や風土を感じるイメージ

出典：高松市公式観光サイト(やしまーる)



木の温もりにより、あたたかみが
感じられる空間イメージ

出典：ウッドデザイン賞HP(江東区立有明西学園)



駅前で自然と触れられるような
人と自然の距離が近い空間イメージ

出典：櫛グリーンディスプレイHP(東京ミッドタウン日比谷)

B. にぎやかで開放的

そこに行けばたくさんの人やモノと出会え、特別感・祝祭感のあるにぎやかで開放的なデザインとする。



内のにぎわいが外に伝わる
開放的な空間イメージ

出典：DAILY SABAH HP(Station F)



活発な人の活動呼び起こす
空間のイメージ

出典：ソトバHP(東京・丸の内仲通り)



居住者や来訪者といった誰もが自由にできる空間のイメージ

出典：コスギサードアヴェニュー施設管理組合HP(Kosugi 3rd Avenue)

素案② ちょっと行ってくるね。駅前

1. コンセプトへの想い

- * 藤沢駅周辺は、多様な機能と、そこに集まってくる人や活動が混ざり合う「ミックスカルチャー」的な場所としての魅力が感じられる。
- * これらの人たちが、それぞれの目的に合った、又は目的がなくとも自分なりの居心地の良い「居場所」を見つけ、時間を気にせずに居続けられるような場としていきたい。
- * 都市の中にそれぞれが居場所(サードプレイス)を見つけられるよう、一見バラバラでありながら、まち全体が有機的に結びつくことで、まとまりや一体感を感じるとともに、訪れる人を包み込む温もりや優しさをもったちょっと行きたくなる「藤沢駅前らしさ」を創出していく。

2. デザインの方向性と展開イメージ

A. 温もり・優しさ

誰もがこのまちに来て、自分に合った居場所を見つけられるような、温もり・優しさを感じるデザインとする。



都市の喧騒の中でも安らぎのある
まちの憩いの場所となるイメージ

出典: Transit Branding Studio HP(シェアグリーン南青山)



曲線的な空間による境界の曖昧さが
どこにいても居心地のいいイメージ

出典: (株)空想舎HP(GRACE FARMS)



どこにいても太陽の光を感じられる
光に包まれているような空間のイメージ

出典: 隈研吾建築都市設計事務所HP(アオーレ長岡)



都市の隙間に人が落ち着ける
居場所を生み出す空間のイメージ

出典: 庭NIWA HP(Slit Park YURAKUCHO)

B. 有機的な結びつき

たくさんの活動が混在しつつも、まち全体として協調性や一体性を
感じられる有機的に結びついたデザインとする。



緩やかな曲線を利用した
有機的なデザインのイメージ

出典: haconiwa HP(とらや工房@御殿場市)



様々な活動に境界がなく
一体性が感じられるデザインのイメージ

出典: BAMBOO MEDIA HP(The CAMPUS)



アクティビティが混在する中でも
自分の居場所がある空間のイメージ

出典: 明治大学HP(和泉ラーニングスクエア)



大地のようなやわらかな広場で
施設とまちがつながるようなイメージ

出典: 隈研吾建築都市設計事務所HP(la kagu)

素案③ “ただいま”と“いってきます”で溢れるまち。

1. コンセプトへの想い

- * 藤沢駅周辺は、市民や来訪者にとって、買い物やレジャーの場として、また、湘南の玄関口として、多くの人が訪れる場となっている。
- * 都心という場所でありながら、市民はもちろん、まちを訪れる人もどこかまちへの愛着や懐かしさを感じ「ただいま」と言いたくなる雰囲気を作り出していきたい。
- * 様々な人たちが行き交うゲートとして、これから色々な所に向かう人たちの「いってきます」が溢れており、それぞれの目的に応じて、スムーズな人の流れを創る、分かりやすく機能的な「藤沢駅前らしさ」を創出していく。

2. デザインの方向性と展開イメージ

A. 愛着・懐かしさ

誰もがこの場所へ訪れた際、まちへの愛着やふるさとを思い浮かべるような、懐かしさを感じるデザインとする。



都市の中にもどこか懐かしさを感じられる縁側のような空間イメージ
出典：2022ハイパー縁側オフィシャルサイト(中津)



昔ながらの建物の良さを残しつつも新しい時代にも対応したイメージ
出典：Paris Convention and Visitors Bureau(BercyVillage)



まちの歴史を体現した、まちへの愛着を持つきっかけとなる空間のイメージ
出典：グッドデザイン賞HP(ミナカ小田原)



過去の場所性が継承されつつもにぎわいが感じられるイメージ
出典：土木学会デザイン賞HP(ログロード代官山)

B. 分かりやすく機能的

行きたいところが分かりやすく、行ってみたいと思えるような機能的なデザインとする。



目指す場所が分かりやすくデザインされているイメージ
出典：SONAR TOKYO SHOPS HP(GINZA SONY PARK)



周囲の活動や施設が認識できる見通しがよい空間のイメージ
出典：島根県芸術文化センターHP(グラントワ)



額縁のような目を引く、まちに顔を出した空間のイメージ
出典：(有)上野建築研究所HP(神田のんき)



情報が「活動」を刺激・誘発するような仕掛けがある空間のイメージ
出典：日経ビジネスHP(JR大阪駅実証実験)

◆デザインの方向性

自然・明るさ

にぎやかで開放的

◆デザインのポイント

- 藤沢の暖かな太陽をイメージして、天井には木材のスリットと暖色系の蛍光を設けることで、木漏れ日のような日の光を表現した空間とした。
- 藤沢の豊かな自然を感じられるように、柱の表面にベージュ系でざらざら感のある自然素材を用いることで、海や風土を感じられる空間とした。
- ● 床面の素材にやや反射性のある素材を用いることで、明るく活気のある空間とした。
- 藤沢駅前のイベントと連携したポスターを掲出することにより、まるで駅前全体でひとつの催物をしているような、一体感のある賑やかな雰囲気とした。
- 人の動きがある場所(店舗やエレベーター等)はガラス張りとすることで、空間の内外の人の動きを感じることができる開放的な空間とした。

イベントポスターによる賑わいの創出

人の動きが見えるガラス張りのエレベーター

木漏れ日のような日の光が感じられるスリット



明るさを表現する反射性のある床

海(砂)や風土をイメージした自然素材の壁面

内のにぎわいが外に伝わる開放的なデザイン

素案② ちょっと行ってくるね。駅前

◆デザインの方向性

温もり・優しさ

有機的な結びつき

◆デザインのポイント

- 全体的に木材の素材感を生かしたデザインとすることで、木の温もりや優しさを感じる空間とします。
- 天井には、スリットを設けることで、木漏れ日のような温もりを感じられる明るい空間とします。
- 可能な範囲で店舗等の壁面に緑を用いることで、温もりや優しさを創出します。
- 季節ごとの行事やイベント等のフラッグを掲出し、まちの一体感を創出します。

フラッグによる季節感・一体感の創出

木漏れ日のような日の光が感じられるスリット



木材の素材感を生かした、温もりを感じる空間

緑による温もりの演出

素案③ “ただいま”と“いきます”で溢れるまち。

◆デザインの方向性

愛着・懐かしさ

分かりやすく機能的

◆デザインのポイント

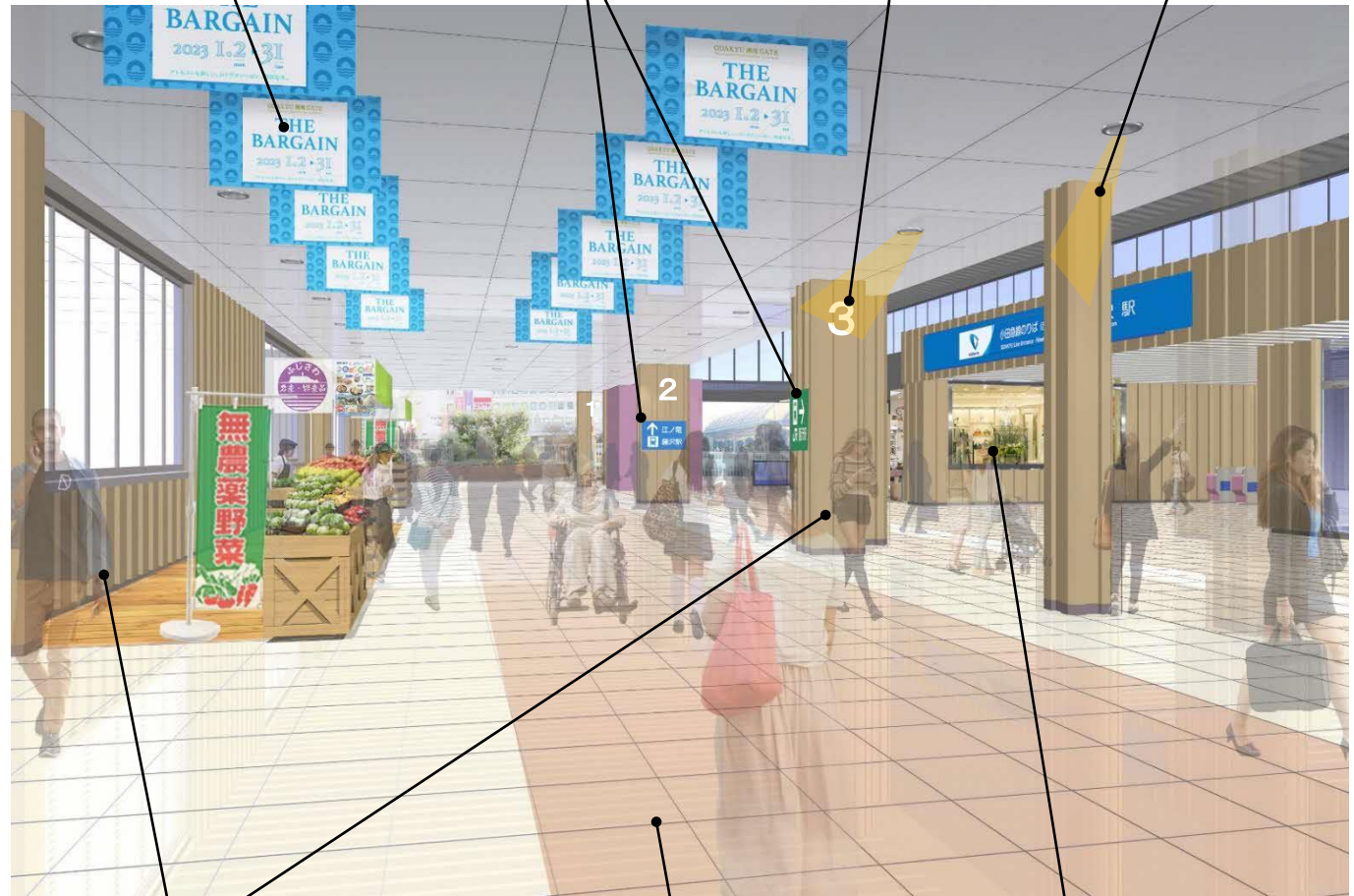
- 壁や柱の表面の表情に変化をつける木材を使用することで、ホッとする、懐かしさを感じるデザインとします。
- 暖色系の光によるダウンライトを設け、ノスタルジー性の演出を行います。
- 自由通路の通過動線のエリアをより明確にするため、歩行空間の色彩を変化させます。
- 季節ごとの行事やイベント等のフラッグを掲出し、来訪者をまち中へ誘い出すきっかけとします。
- 店舗壁面をガラス張りとし、中の様子を見せることで、行ってみようと思えるデザインとします。

フラッグによる高揚感の創出

目立つピクトグラムによる江ノ電・JR改札への誘導

待ち合わせの目印となる柱の番号

暖色系のダウンライトによるノスタルジー性の演出



木材を使用し、壁や柱面の表情に変化をつける

色彩の変化による歩行空間のイメージづけ

ガラス張りによる見える店舗内部

(参考) 藤沢駅周辺地区再整備事業のコンセプト

特殊街路

コンセプト

「都市の路地・ガーデン」

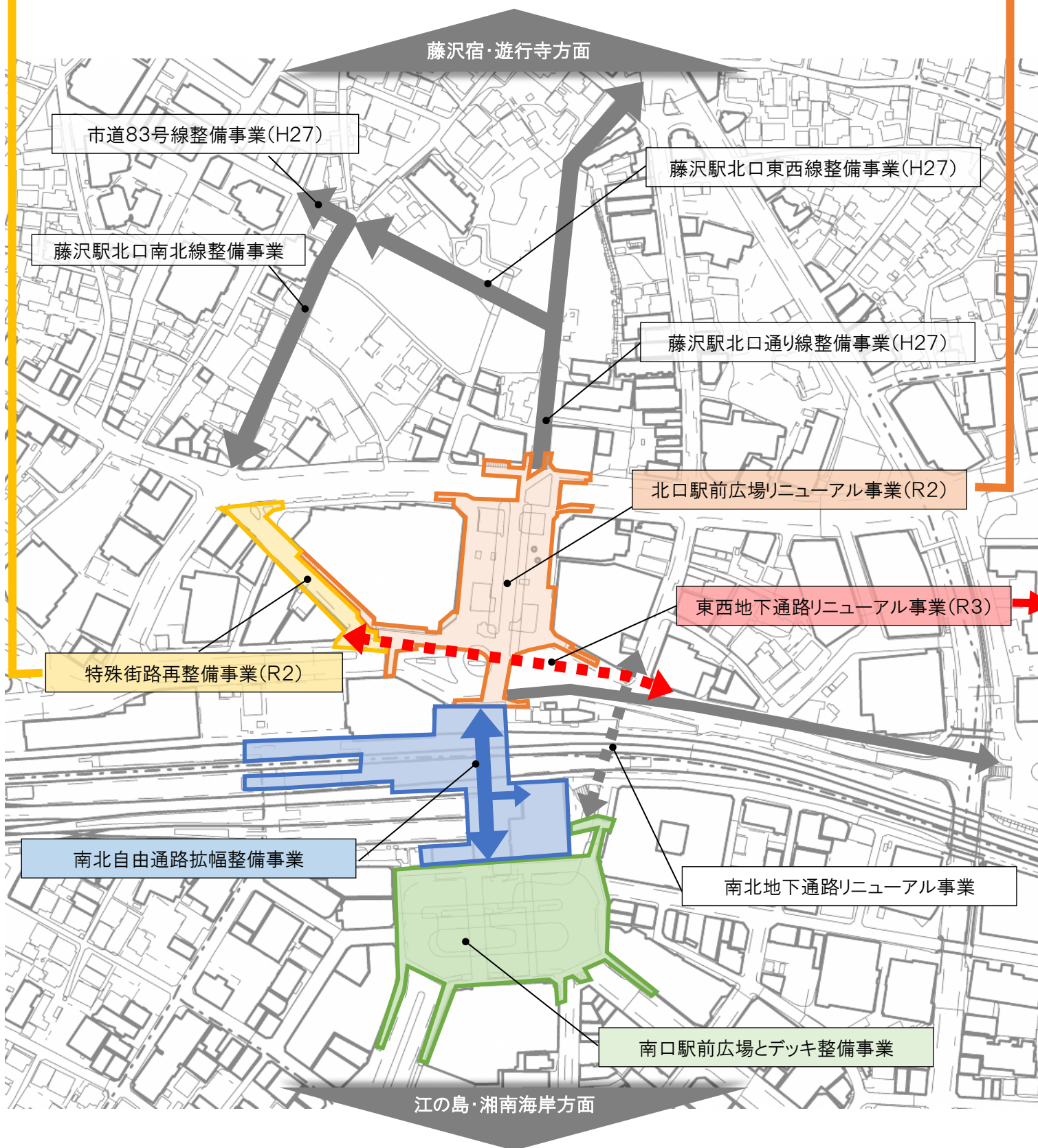
- * いつでもにぎわう
- * 市民の活動・イベントに対応可能なオープンスペース
- * ヒューマンスケールの路地空間
- * お洒落で何かノスタルジー
- * 夜はロマンチックに・ずっといたい



南北自由通路



南口駅前広場



北口デッキ

コンセプト

「暮らしを楽しむ広場・ガーデン」

- * 日常の暮らしに高揚感を感じる
- * 緑のうおい・季節感を感じる屋上ガーデン
- * 歴史・文化、自然を背景とした明るくおおらかな空間形成
- * 駅前の多様な景観を受け止める、時代に流されないスタンダードデザイン
- * 余白(フレキシブルさ)のあるデザイン
- * 「藤沢らしさ」をイメージできる、ゆとり・あたたかみのあるデザイン



東西地下通路

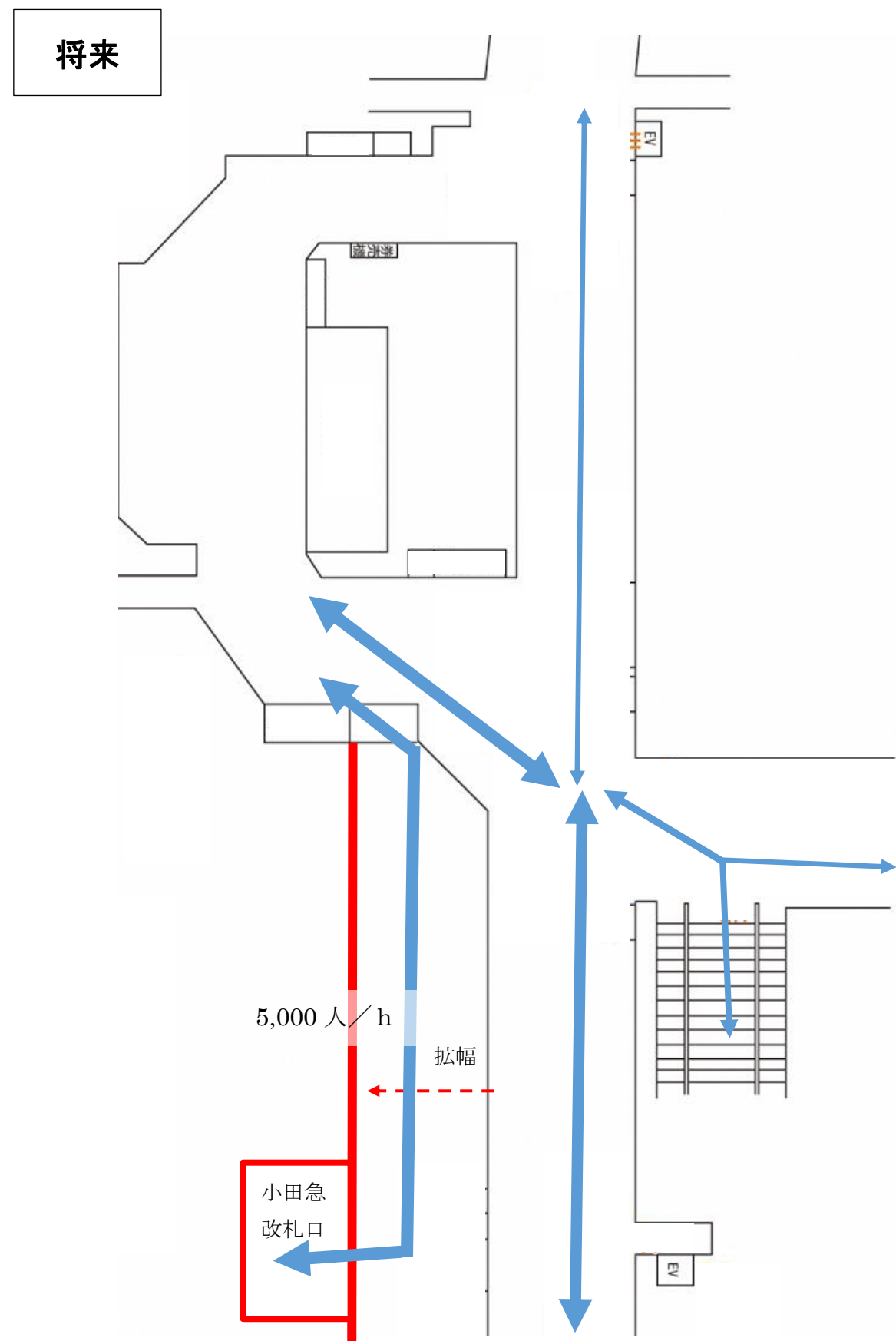
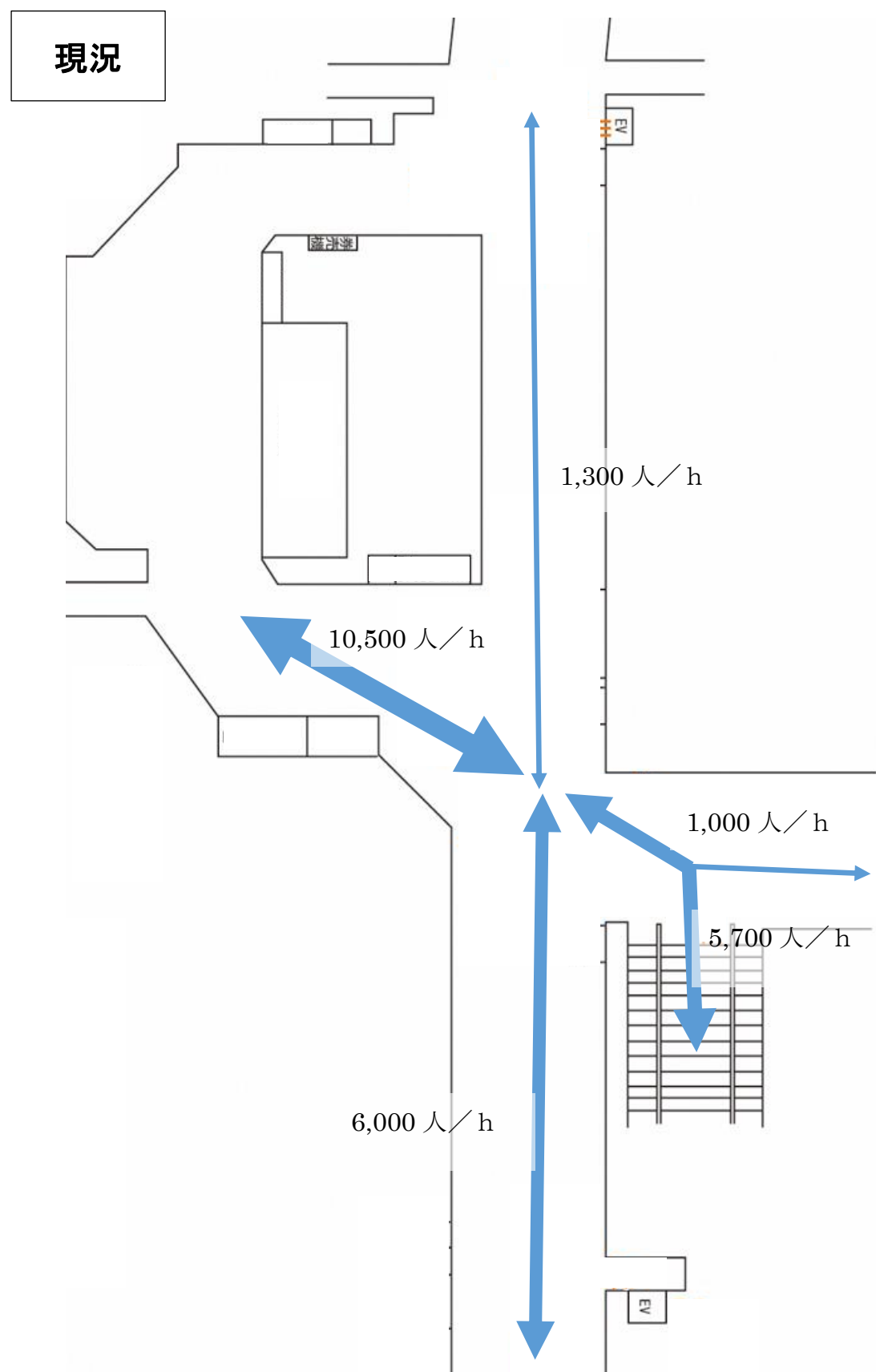
コンセプト

「つなぐ」「むすぶ」「ささえる」

- * まちに人を広げ、人とまちをささえる仕組みと活動の空間
- * 相模湾の大きな水面を擁した湘南・藤沢の風土
- * 「つなぐ」「むすぶ」歴史や文化



(参考) 南北自由通路の動線計画



※交通量は平成 25 年に実施したもの(朝ピーク時)